



主要な農作物の生育情報

平成26年度 第2号

(平成26年5月9日)

福島県農林水産部農業振興課



【水 稲】

育苗用の播種作業は、盛期（50%終了）が平年より1日遅れ4月17日、終期（95%終了）が平年並みの4月25日でした。育苗期間の病害の発生は例年に比べ少なかったですが、一部で苗立枯病やもみ枯細菌病が確認されました。

直播栽培は、4月下旬から播種作業が始まっています。また、移植栽培も、早いところでは4月下旬から始まっています。作業は風がなく暖かい日に行い、本田での水管理をていねいに行うことで初期生育を確保しましょう。

【麦 類】（農業総合センターにおける生育状況より）

1 大麦（シュンライ）

出穂期は、平年より1日から2日早くなりました。生育量は、草丈が平年並みから長く、茎数が平年並みから多くなっています。葉齢は、本部で平年より多く、浜地域で少なくなっています。

2 小麦（きぬあずま、ゆきちから、ふくあかり）

出穂期は平年に比べ、「きぬあずま」が本部で3日早まり浜地域で1日遅れ、「ゆきちから」が本部で6日早まり、「ふくあかり」が1日早まりました。生育量は、草丈が全場所で平年より長く、本部での茎数が平年より多く、浜地域と会津地域での茎数が平年より短くなっています。葉齢は、「きぬあずま」と「ゆきちから」では平年より多くなっています。

表1 麦類の生育状況*

種別	調査場所	品 種	は種期 (月.日)	出穂期 (月.日)	5月1日調査*		
					草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢
大 麦	本 部	シュンライ	10.18(-2)	4.25(-2)	77.4(99%)	608(99%)	12.5(+0.7)
	浜 地 域	シュンライ	10.30(+5)	4.26(-1)	84.5(108%)	698(106%)	11.3(-0.8)
小 麦	本 部	きぬあずま	10.18(-2)	5.1(-3)	72.0(109%)	677(104%)	10.5(+0.2)
	浜 地 域	きぬあずま	10.30(+5)	5.4(+1)	67.6(106%)	589(86%)	11.0(+0.4)
	本 部	ゆきちから	10.18(-2)	5.3(-6)	65.4(113%)	877(115%)	13.0(+0.3)
	会津地域	ゆきちから	10.4(±0)	-(-)	44.9(109%)	618(82%)	12.8(データ無)
大 麦	本 部	ふくあかり	10.18(-1)	4.28(-1)	74.6(105%)	758(109%)	10.7(-0.2)
	浜 地 域	ふくあかり	10.30(+6)	4.30(-1)	75.0(121%)	563(88%)	10.9(-0.3)

※農業総合センター本部(郡山)・会津地域研究所(会津坂下)・浜地域研究所(相馬)の調査による。
()内の数字は平年(前5年平均)との比較。「ふくあかり」は準平年(前2年平均)との比較。

【野 菜】

1 アスパラガス

県北地方の半促成栽培は、春取りが終了し立茎が行われています。

会津地方の露地栽培は、平年より5日程度早く5月上旬から出荷が始まりました。順調に生育しており、今後出荷量が増加する見込みです。

両地方ともに病害虫の発生はほとんど見られません。

2 きゅうり

県中地方の半促成(加温)栽培は、平年より1週間程度遅れ4月上旬から出荷が始まりました。

また、半促成（無加温）栽培も、平年より5日程度遅れの5月上旬から収穫されています。一方、露地栽培の播種は、平年並みの4月20日頃から行われており、定植は5月25日を中心に行われる見込みです。病虫害はハダニ類の発生ほ場割合が高いため、注意が必要です。

3 トマト

県南地方では、2月下旬から3月上旬は種の作型で、平年並みの4月中旬から5月上旬にかけて定植作業が行われました。低温の影響はほとんど無く、平年並みに生育しています。

南会津地方では、昨年より2日早く4月8日から共同は種が行われ、また、各農家への仮植苗配布は、昨年より3日早く4月27日から5月2日に実施されました。平年より苗の生育が早く、ほ場準備の進捗状況も良好なことから、定植作業は平年よりやや早まり5月中旬から随時行われる見込みです。両地方ともに病虫害の発生はほとんど見られません。

4 春ブロッコリー

県南地方では、資材のべたがけ栽培の体系で、平年並みの3月下旬から4月上旬にかけて定植が行われました。春先の乾燥の影響が心配されましたが、生育は平年並みで5月中旬から出荷が行われる見込みです。病虫害の発生はほとんど見られません。

【果 樹】

1 果樹研究所における生育状況

- (1) もも「あかつき」の満開は、平年より2日早い4月19日でした。
- (2) なし「幸水」の満開は、平年より1日早い4月26日でした。
- (3) りんご「ふじ」の満開は、平年より2日早い4月29日でした。
- (4) おうとう「佐藤錦」の満開は、平年より2日早い4月23日でした。
- (5) ぶどう「巨峰」の展葉は、平年並の4月25日でした。

表1 開花状況

樹 種	品 種	開花始め			満開		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
も も	あかつき	4月14日	4月15日	4月13日	4月19日	4月21日	4月18日
	ゆうぞら	4月15日	4月16日	4月14日	4月20日	4月21日	4月19日
な し	幸 水	4月21日	4月23日	4月19日	4月26日	4月27日	4月27日
	豊 水	4月16日	4月19日	4月15日	4月23日	4月24日	4月22日
り ん ご	つ が る	4月25日	4月26日	4月25日	4月29日	5月1日	5月2日
	ふ じ	4月25日	4月27日	4月26日	4月29日	5月1日	5月3日
おうとう	佐藤錦	4月17日	4月19日	4月16日	4月23日	4月25日	4月24日

注) 平年値は、1981～2010年の平均値（おうとうは1994～2010年）。

表2 発芽・展葉状況

樹 種	品 種	発 芽			展 葉		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
ぶどう	巨 峰	4月17日	4月19日	4月18日	4月25日	4月25日	4月26日

注) 平年は1988～2010年の平均値。

2 栽培上の留意点

(1) 防霜対策

開花期から幼果期にかけては、耐凍性が低く凍霜害の危険性が高くなるため、気象情報に十分注意し、防霜対策を徹底しましょう。

事前に防霜資材の手配とその準備を徹底するとともに、地温の上昇を図るため、下草を5cm程度に刈り込みましょう（地際部まで刈ると放射性物質をまきあげのおそれがあります）。

また、空気や土壌が乾燥している場合は、適宜かん水を実施し土壌水分を確保しましょう（乾燥条件は気温の低下を助長するおそれがあります）。

(2) ももせん孔細菌病対策

福島及び伊達地域では、5月上旬の春型枝病斑の発生ほ場割合が平年より高い状況でした。また、昨年の秋季において、両地域ともに新梢葉での発生が目立ったことから、越冬菌密度は高いと考えられ、今後の発生量はさらに増加すると予想されます。

降雨に伴い、第一次伝染源となる春型枝病斑から病原菌が分散し、新梢葉に感染します。昨年発生が見られた園では、適期防除を心掛け初期感染の防止に努めましょう。

なお、春型枝病斑やこれに類似する疑わしい枝枯れは、見つけ次第徹底してせん除しましょう。

【花 き】

1 コギク

県北地方の8月咲きの定植は、平年並みの4月20日頃から行われました。定植時は乾燥していましたが、十分なかん水により活着は良好です。9月咲きの定植は、平年並みの5月上旬から行われる見込みです。病虫害の発生は特に見られません。

2 リンドウ

安達地方は、春先の乾燥の影響を受け節数は平年並みでしたが、草丈が平年より若干低く生育しています。

喜多方地方の山間部では融雪以降、気温が総じて低く経過していることから、やや生育が遅れています。平坦部では平年並みの生育です。

南会津地方では、生育の早い地区で平年並みの4月上旬から萌芽が見られ、節数も確保されています。

3地方ともに病虫害の発生は特に見られません。

【飼料作物】

牧草は雪解けが早かった地域もあり、順調に生育しています。

飼料用とうもろこしは播種適期を迎えています。4月下旬に播種したほ場では発芽が確認されています。

◎ 病虫害の発生状況や防除情報については、病虫害発生予察情報（ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/fappi/index.html>）等を活用し、適切に対応してください。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL(024)521-7339

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/nogyo-nousin-gijyutu03.html#seiikujyohou>